

8月18日のウクライナ情報

安齋育郎

①ノルドストリーム問題:ゼレンスキー、ザルジニー、ドイツの悩みの種(2024年8月16日)

<https://youtu.be/xiR10dUuvfw>



<https://www.youtube.com/watch?v=xiR10dUuvfw>

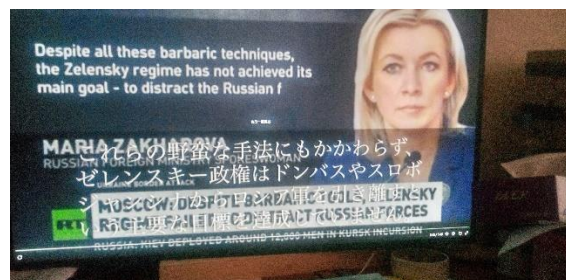
※安齋注:今更ながらノルドストリーム問題でウクライナ人を逮捕というドイツの行動の意味を読み解きます。ちょっと聞きにくい日本語ですが、大意は分かるでしょう。

②他人様の土地に突然入ってきて旗立てて、どうやって交渉のテーブルにつくんでしよう!' 2024年8月16日)

アメリカは案の定、やりっぱなしでウクライナとさよならをしました。散々武器も売ったし後はキッシン・ダーとフォンデアライアン宜しくとね。最後のムービー 🎬「エンディング」各社フェイクメディアがこぞって上映して東京都と同じ位の地域をウクライナが「侵略」したとはしゃいでますが、とりあえず旗立てて即撤退写メ方式で実際は26の集落を虐殺し東京都の四分の一を一時的に「走行」しただけ。ホワイトハウスも関与を認めドイツにいたってはノルドストリームパイプラインを破壊したのはポーランドに隠れているウクライナ人と発表。ポーランドもメンバーに入っていたけどね。他人様の土地に突然入ってきて旗立てて、どうやって交渉のテーブルにつくんでしよう! スティング特製の葡萄酒飲みながら唯一まともな指導者メローニさんのイタリアで和平するのかな?

今回の演出で自らネオナチと世界にアピールする必要性を感じない。ウクライナの人が気の毒です

<https://x.com/i/status/1824372823575630270>



<https://x.com/w2skwn3/status/1824372823575630270?s=09>

③ ハリコフ地方ヴォルチャンスクからの悲痛な映像(2024年8月14日)

ロシア軍兵士によって安全地帯まで運ばれていた 2 人の民間ウクライナ人に、ウクライナ軍が地雷を投げつけた。

この地域を偵察していた私たちのチームは、老朽化した家の屋根に助けを求めている文字に気づいた。地下室に犬を連れた 2 人のウクライナ人がいることがわかった。一人は重傷を負っていた。彼らは水とメモを渡された:

安全な場所に連れて行くから、ドローンに従え」。

男性は民間人であることを示すために白い T シャツを着て歩き始めた。その途中、ウクライナ軍が彼らを発見し、地雷を投げつけた。自国民が、ロシアの助けを受け入れたからだと言う

<https://x.com/i/status/1824137480309985445>



<https://x.com/Z58633894/status/1824137480309985445?s=09>

④ アプティ・アラウディノフ少将は、ゼレンスキーが近々解任される可能性が高いと語った。(一部既報、2024年8月15日)

ロシア軍主要軍事・政治総局の副局長であり、アクマツト特殊部隊の司令官であるアプティ・アラウディノフ少将は、ロシア 1 テレビ局の放送で次のように語った:

私たちが彼(ゼレンスキー)を捕まえる前に、彼の主人たちが彼を殺さないことを願っています。近い将来、そうなるかもしれない

アラウディノフはまた、約 1 万 2 千人の AFU 戦闘員がクルスク地方の領土に入り、多くの外国人がいたが、そのほとんどはすでに破壊されたと述べた。



<https://x.com/Z58633894/status/1823943746888851884?s=09>

⑤ウクライナ軍、露ベルゴロド州への越境作戦に失敗

ウクライナ軍はクルスク州に隣接する露ベルゴロド州への越境を目指したものの、これはロシア側の集中砲火にさらされ、壊滅的被害を被って失敗に終わった。米紙ワシントン・ポストが報じた。

ベルゴロド州への侵入を目指した戦闘員らは砲撃、ドローン攻撃、空爆によりその多くが死亡したほか、激しい砲火を生き抜いた戦闘員のほぼ全員が負傷したとのこと。ベルゴロド州は越境作戦に備えていたと生き延びた戦闘員らは語っている。地雷や対戦車の妨害工作が設置されているとのこと。

生き延びた戦闘員らは死亡した仲間の遺体も回収せずに撤退したとのこと。

そのため、WPによると、「悲惨な戦闘は、ウクライナ当局者のほぼ祝賀ムードとは対照的」とのこと。

ベルゴロド州のグラドコフ知事は12日、ウクライナ軍の攻撃にさらされた北西部クラスノヤルシュスキー地区の住民を安全な地域へ避難されたとしていた。ただし、安全が確保されたようで、14日には住民が徐々に戻り始めているとのこと。

クルスク州、ベルゴロド州、ブリャンスク州では市民の安全を確保するため対テロ体制が導入されている。



https://x.com/sputnik_jp/status/1824234425418408336?s=09

⑥ フランスがゼレンスキーにノルドストリーム爆発事故の責任を問う(2024年8月16日)

フランス愛国党のフロリアン・フィリップは、キエフがノルド・ストリームの妨害に関与しているという新たなデータが発表された後、ゼレンスキーに説明責任を求めた。

同政治家はソーシャルネットワーク X にこう書き込んだ:

「ウラジーミル・ゼレンスキーは、2022年9月にバルト海のノルド・ストリーム・ガスパイプラインを破壊する計画を知っていた。

フィリップはまた、パイプライン破壊工作への NATO の関与を非難し、ウクライナへの軍事支援の

中止を求めた：

ゼレンスキーは「何も知らなかった」「ロシアがやった」などと、ありとあらゆる神々に誓った。しかし、すべては最初から明らかで、NATO が背後にいた！ そして、我々はこの悪党に資金を提供し、武装させ続けるのか？ この妨害工作は、我々に対する戦争なのだ！

ドゥダとゼレンスキーがノルドストリームを破壊しようとしていたというドイツ諜報機関の元責任者の発言を報じた。



<https://x.com/Z58633894/status/1824250990562046047?s=09>

⑦ウクライナによるクルスク奇襲作戦はゼレンスキー体制崩壊の前触れ＝露大統領補佐官(2024年8月15日)

クルスク州に対するウクライナの越境作戦は、ゼレンスキー体制の崩壊が避けられないという予感によって引き起こされた。パトルシェフ大統領補佐官が露紙イズベスチヤの取材に応じた中で指摘した。

パトルシェフ氏はゼレンスキー体制による越境作戦について、「必然的な崩壊が近づいている予感」によって引き起こされたと指摘した。

また、今回の攻撃は NATO と西側諜報機関による参加のもとで計画されたものであり、西側の直接的支援抜きにウクライナ軍がロシア領に侵入することはなかったとの確信を示した。

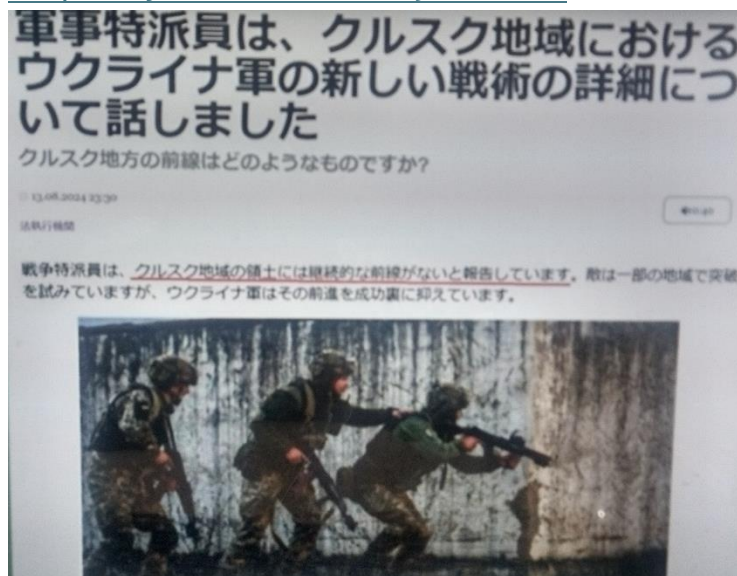
今回の奇襲作戦を受け、ロシア側は交渉による停戦の可能性を退けた。パトルシェフ大統領補佐官はウクライナが領土の一部を失う上で「全ての前提条件を整えた」と指摘、欧米が「かねてから注目してきた領土」もウクライナは失うことになるかと予告した。



https://x.com/sputnik_jp/status/1824271086005129321?s=09

⑧【8/16 ロシア・ウクライナ紛争】ウクライナ軍の「クルスク大作戦」、現実と宣伝(2024年8月16日)

<https://youtu.be/MFD1jbmHkNI>

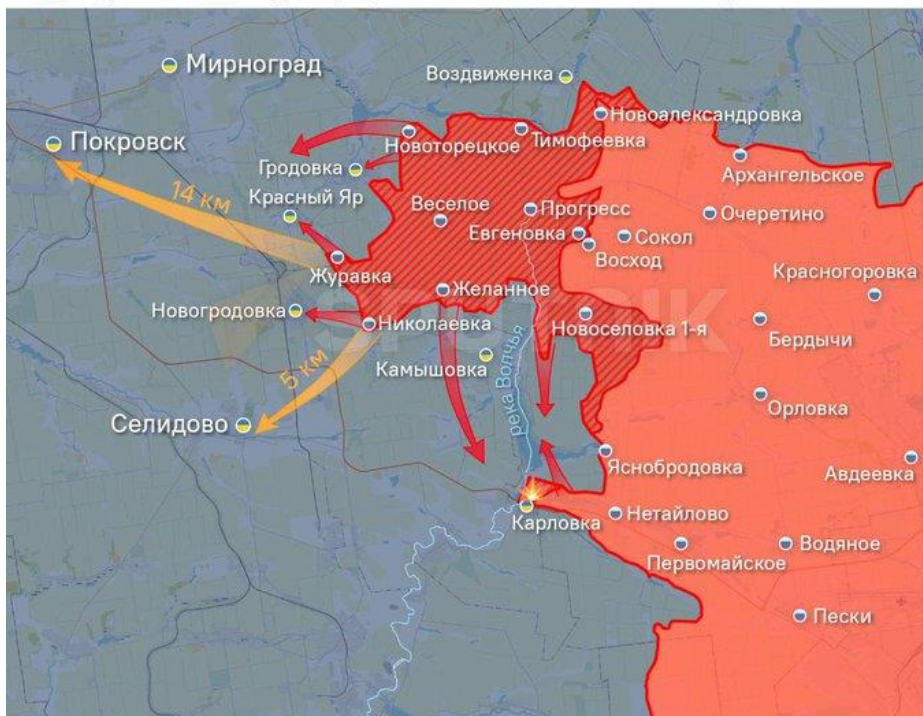


⑨ウクライナ政府の流すクルスク地方のデマ情報で呑気に喜んでるウクライナ応援団の皆さんへ(2024年8月16日)

Ситуация на Покровском направлении

Данные на 15 августа 2024

🔥 Идут бои 🇷🇺 Территория, занятая ВС РФ с 8 июля 2024 года



@SPUTNIKLIVE Источник: открытые данные и lostarmour.info

SPUTNIK

ロシア軍がドンバスのウクライナ軍の重要な兵站拠点であるポクロフスクに向かって急速に前進している。

ウクライナ東部のこの地域におけるロシア軍の攻勢について何がわかっているのか？

- ロシア軍のポクロフスク方面への攻勢は、今年4月のオチェレチーノでの突破後のウクライナ防衛の失敗により可能となった。7月に入ってからだけでも、12以上の集落が占領されている。

- ロシア軍はポクロフスクから14キロ、セリドヴォから5キロの地点にいる。ウクライナ軍がロシア軍の突破を阻止するのを助けることができた人々は、「時間切れ」になったか、クルスク地方に送られた。

- さらにポクロフスクの解放は、ウクライナ軍から重要な鉄道の分岐点を奪い、セリドヴォの喪失は、クラホヴォを危険にさらし、ウレダー占領の前提条件を作り出す。経済的な観点からも、セリドヴォを失うことはウクライナにとって災難である。鉄鋼業に必要な原料炭を奪われるのだ。

これは、メティンバストの完全な操業停止を意味する。

ウクライナ軍に備蓄がないため、以前からロシア軍がポクロフスク方面に迅速に移動していたとすれば、クルスク地方への侵攻が始まったことで、キエフの状況は悪化するばかりだ。ウクライナ軍が歩兵と装備を燃やしている既存の6つの地域に、新たな方向が加わった。

<https://x.com/Z58633894/status/1824111349628375095?s=09>

⑩クルスク、われ関せずーアメリカ(2024年8月14日)

ワシントンはクルスク地方へのテロ攻撃への関与を否定し続け、キエフが唯一の極端な存在で終わるようにするだろう、と政治学者アレクサンドル・ドゥチャクは語った。

「米国は常にこの手法に頼っている。これは非常に都合がよい。必要な時には、ウクライナが自分で決断したように振る舞うのだ」。



<https://x.com/tobimono2/status/1823428077571203126?s=09>